事業番号　156

平成２３年行政事業レビューシート　（厚生労働省）

事業名	国際交流調査研究事業	担当部局庁	健康局	作成責任者
事業開始・終了(予定) 年度	平成８年度	担当課室	総務課指導調査室	総務課指導調査室 岡山　健二
会計区分	一般会計	施策名	Ⅳ－３－３　原子爆弾被爆者等を援護する	
根拠法令（具体的な条項も記載）	ー	関係する計画、通知等	「平成22年度国際交流調査研究事業実施要領」	
事業の目的（目指す姿を簡潔に。3行程度以内）	当事業は、世界唯一の被爆国として我が国のこれまでの調査研究によって得られた経験と知識を広く世界に還元し、併せて外国の研究者から情報を得ることによって、より一層の原爆放射線による健康影響に関する調査研究の向上を図ることを目的とする。			
事業概要（5行程度以内。別添可）	当事業は、外国における放射線被曝医療等に関する指導、技術支援、医療情報の提供等の援助協力を行うため、日本の専門家の派遣及び外国からの研修医師等の受け入れ等を実施する。			
実施方法	□直接実施　■業務委託等　□補助　□貸付　□その他			

予算額・執行額（単位:百万円）

		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求
予算の状況	当初予算	9	6	5	4	4
	補正予算					
	繰越し等					
	計	9	6	5	4	4
執行額		9	6	5		
執行率（%）		100%	100%	100%		

成果目標及び成果実績（アウトカム）

成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値（　年度）
当事業は放射線被曝医療等に関する知識を広く世界に還元し、併せて外国の研究者より情報を得ることで原爆放射線による健康影響に関する調査研究の向上を目的としているため、成果指標を設定すること等には馴染まない事業である。	成果実績	－	－	－	－	－
	達成度	%	－	－	－	

活動指標及び活動実績（アウトプット）

活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
医師の派遣人数及び研修医師の受入人数	活動実績（当初見込み）	人数	派遣:10人 受入:　7人 －	派遣:　6人 受入:　3人 －	派遣:　3人 受入:　2人 （派遣:3人） （受入:2人）	－ （　ー　）

単位当たりコスト	－　（円／　－　）	算出根拠	単位当たりのコストを算出することは困難である。

平成23・24年度予算内訳

費　目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由
旅費等	4百万円	4百万円	
計	4百万円	4百万円	

事業所管部局による点検			
	評 価	項　　目	特記事項
目的・予算の状況	－	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	－	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	－	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途	×	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	本事業の日本の専門家派遣、外国からの研修生受入れ、日本との生活環境の違いによる影響の調査研究、放射線被曝医療等に関する国際シンポジウムを効果的に実施するためには、原爆放射線の人体に及ぼす影響についての高度な専門的知識を有する人材及び大規模な疫学データを有し、放射線の研究及び医療双方を専門的に行える環境を有している者が実施する必要があるが、上記条件を満たす者が一者のみ若しくは複数存在するかを確認するため公募を行っている。
	－	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	－	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	－	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	－	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	－	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	当該事業については、平成20年度から23年度にかけて毎年精査し削減を行っている。24年度予算においては23年度予算と同規模であるが、国際原子力機関（IAEA）等への日本人専門家の派遣や（財）放射線影響研究所への外国からの研修医師等の受け入れを当該経費で実施しており、これ以上の削減は事業の円滑な推進に支障をきたすものとなるため不可能である。		

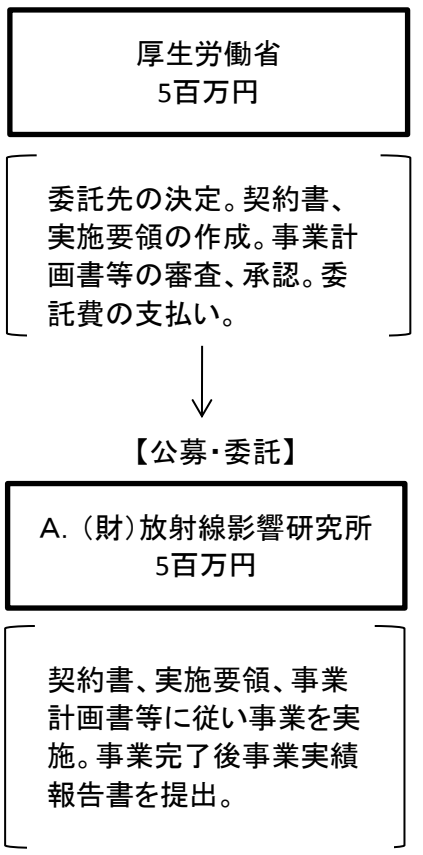
予算監視・効率化チームの所見	
現状通り	国際交流調査研究事業については、事業内容等を精査し、必要な予算措置、執行に努めること。

上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点（概算要求における反映状況等）
―

補記 （過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：百万円）

※平成22年度実績を記



費目・使途
（「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載）

A.

費　目	使　途	金　額（百万円）
旅費	日本の専門家派遣旅費等	4
その他	謝金、郵便料金等	1
計		5

E.

費　目	使　途	金　額（百万円）
計		0

B.

費　目	使　途	金　額（百万円）
計		0

F.

費　目	使　途	金　額（百万円）
計		0

C.

費　目	使　途	金　額（百万円）
計		0

G.

費　目	使　途	金　額（百万円）
計		0

D.

費　目	使　途	金　額（百万円）
計		0

H.

費　目	使　途	金　額（百万円）
計		0

支出先上位10者リスト

A.　(財)放射線影響研究所

	支　出　先	業　務　概　要	支　出　額 （百万円）	入札者数	落札率
1	(財)放射線影響研究所	外国における放射線被曝医療等に関する援助協力	5	1	100%
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					